



TITLE:

京大広報 No. 78

AUTHOR(S):

京都大学広報委員会

CITATION:

京都大学広報委員会. 京大広報 No. 78. 京大広報 1972, 78: 325-326

ISSUE DATE:

1972-12-27

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/209614>

RIGHT:

京大広報

No. 78

京都大学広報委員会

総長声明について

総長は、本学の有害物質の排出に関して、11月22日下流域住民に対して説明会を行なった。これに関して、次のような声明を出した。

7月工学部、9月理・農学部、11月附属病院の排水路、ためますにおいて発見された水銀その他の有害物質は、本学の研究・教育の過程で排出されたものであり、それは、主として、教官が公害による被害者の立場に立った指導を行なってこなかったことに起因するものとする。

このような環境で学生の教育を行ってきたことに対し、教育機関として、その社会的責任を痛感し、深く反省する。

本学は、具体的な行動を通じてその責任を明らかにするため、再びこのような事態が発生しないよう対策に万全を期するとともに、住民から公害による被害の調査等の要請があれば、これに応ずる必要があると考える。

最後に、今回の事態につき下流域住民に心から陳謝し、今後本学の有害物質排出に関して下流域住民から要求があれば、話し合いに応ずる所存である。

12月13日および12月15日の 学生部長の掲示について

学生部長は最近の学内の情勢に鑑み次のような掲示を出した。

(掲 示)

本学は、学生諸君の自治活動を尊重し、これに干渉するような発言はしないことを原則としてきたが、最近の学内における事態は遺憾ながら自治

活動の混乱に基因するところがあるといわざるを得ない。

言論・表現の自由が他のいかなる社会にもまして確保されるべき大学においては、学生の自治活動も、学生諸君が自ら定めた規約に則り、理性的な話し合いによって営まれるべきであることは言をまたない。いわんやゲバ棒などを携帯し、力に訴える行為のごときは厳に慎むべきことである。いたずらに一時の感情に走ることなく、良識ある論議をつくり、学生諸君自らの手で現在の自治活動の混迷から立ち直られることを切望してやまない。

昭和47年12月13日

学生部長 川 又 良 也

(掲 示)

さる12月13日に強く自戒を求めたにもかかわらず、依然として学内においては混乱が続いており、そのために、学外の市民にまで多大の迷惑をかけ、登下校時の児童や幼稚園児が危険にさらされている現状である。

直ちに暴力的行為をやめ、良識ある行動をとるよう、学生諸君の猛省を促すものである。

昭和47年12月15日

学生部長 川 又 良 也

第四錦林小学校育友会との 懇談会について

さる12月17日(日)楽友会館において、本学と第四錦林小学校育友会との懇談会が行なわれた。この懇談会は、別掲の育友会長からの「京都大学への申し入れ書」について両者が話し合うためのもので、本学からは総長および学生部長、育友会

からは会長、副会長ほか会員多数が出席した。

懇談会は午前10時に始まり、「申し入れ書」の諸点のうち主として第1項目につき話し合われたが、総長は、この問題に関して地域住民ならびに学校関係者に対し多大の迷惑をかけていることを深謝し、この問題を解消するために大学として可能な方法によりできるだけ努力を続ける旨説明して、同11時30分終了した。

(別 掲)

「京都大学への申し入れ書」

第四錦林小学校区は京都大学を管内にもち、昔から非常に教育環境のよいところとして有名であり、私達児童をもつ保護者としても大変喜んでおりました。

しかしここ数年来大学紛争その他京都大学をめぐる種々の問題のため通学の児童達が精神的肉体的に多大の危険と迷惑をこうむることが多くなっております。私達は、四錦校の児童の安全を守るという立場から次の諸点について善処されるよう申し入れます。

- 1 大学正門前の道路は、学童通学路になっていますが、大学紛争時はしばしば危険を感じ通ることができません。いかなる時にも児童の通学の安全を保障して下さい。
- 2 大学周辺の立看板が釘が出たり倒れたりして多大の危険を感じますので責任をもって管理指導して下さい。
- 3 東一条交叉点の通行が安全にできるよう考慮して下さい。東北角のすみをきり見通しをよくし、ガードレールを設置して下さい。
- 4 大学周辺の照明を増設して下さい。
- 5 万一児童に事故が起きたときの保障対策を考慮して下さい。
- 6 大学紛争時のデモ行進、投石等の情報を正

確かつ迅速に四錦校宛知らせて下さい。

- 7 以上の件につき定期的に話し合いをもつための窓口を設けて下さい。

昭和47年11月20日

第四錦林小学校育友会

会長 高 橋 幹 二

京都大学総長 殿

なお、12月14日から23日まで学生部委員、各学部・教養部の教官および事務局・学生部の職員が東一条通りで通学・通園の児童・園児の誘導にあたった。

教官の海外渡航（外国出張）事務 の取扱いの一部変更について

海外渡航手続等の概要については、京大広報No.41に掲載されていますが、このたび文部省において、国立大学等からの要望に基づき、教官の海外渡航の特殊性を考慮し、渡航後における研究活動の円滑化を期するため、渡航事務手続きの改善を検討した結果、教官の海外渡航事務の取扱いが次のとおり変更されました。

教官が研究を目的として外国出張する場合に、すべて文部大臣の承認を要することは従前どおりですが、旅券については、「一般旅券」によることが原則となり、一般旅券への渡航先国の追加および出張期間の変更については、各大学長において処置してさしつかえないこととなりました。

ただし、特別な事情があると認められる場合および本人が特に希望する場合には、従前どおり公用旅券の発給請求をすることができます。

なお、詳細については、昭和47年10月11日付け文部事務次官通知および文部省人事課長通知を参照してください。
(事務局)